

## [報告] 第 23 回歴史地震研究会の報告

歴史地震研究会幹事会

明治三陸地震津波から 110 年を迎える 2006 年、岩手県大船渡市のご協力を得て、9 月 15 日(金)から 17 日(日)の日程で、研究発表会・公開フォーラム・総会・野外見学会を実施しました。

研究発表会では、32 件(口頭 31 件、ポスター 1 件)の発表に加えて大船渡市の津波災害写真の展示があり、活発な意見交換が行われました。発表プログラムは本誌収録の研究会記事を、発表内容については本号収録の各論文または講演要旨をご覧ください。研究発表会の参加者から寄せられた感想も、本誌に収録しています。

一般市民を対象とした公開フォーラムは、「三陸の津波と防災」と題して、伊藤和明氏の司会により、以下の 4 件の講演に公開討論を加えたプログラムで実施しました。

- ・今村文彦 「インド洋津波被害と教訓」
- ・佐藤健一 「住民の早期避難の問題点 ～ 宮城県沖地震の教訓から ～」
- ・都司嘉宣 「大船渡市の津波対策 ～ 江戸時代までの三陸・遠地津波を考慮して ～」
- ・山下文男 「明治・昭和三陸津波の歴史的教訓」

次頁以降に収録した 4 編の講演記録は、東海新報社(本社:大船渡市)のご厚意により、同社発行の「東海新報」に掲載された連載コラム「歴史地震研究発表会公開講演より」(2006 年 10 月 27 日～12 月 8 日)を本誌向けに組版して転載させていただいたものです。この場をお借りして、東海新報社に謝意を表します。

総会では、2005 年度の活動報告と決算報告、2006 年度の予算と事業計画、役員の選出、会則の改正などが議題となりました。引き続き都司嘉宣氏が会長に就任し、会則の改正により副会長を設けることになりました。詳しくは、本誌収録の研究会記事の総会議事録などで報告しています。

野外見学会は、「大船渡の地震津波記録をたずねて」と題して、山下文男、都司嘉宣、今村文彦各氏のご案内で、明治と昭和の三陸地震津波にまつわる場所を訪問しました。野外見学会の参加者の感想も本誌に収録しています。

2006 年の歴史地震研究会の大会は、岩手県大船渡市との共催により成功裡に終えることができました。末筆ながら、本会の活動趣旨に賛同して、開催にご尽力賜った大船渡市および関係者各位に感謝申し上げます。